

(5) 館内職場環境整備活動(4～10月)

当センターの主要課題の一つに施設の老朽化が挙げられます。昨年度より 職場環境改善チーム を発足させ老朽化対策に取り組みつつあります。本年度も年初に設定した「予算枠」の中で、幾つか改修事業を実施しました。今後もこの活動を積極的に進める予定であります。

4、平成 19～20 年度役員名簿（順序不同）

【理事】			
氏名	所属	職名	
1 入江 宏定	(財)日本溶接技術センター	会長	
2 奥村 誠	(財)日本溶接技術センター	専務理事	
3 岡本 晴仁	(財)日本溶接技術センター	理事	
4	神奈川県商工労働部工業振興課	課長	
5 大谷 悦夫	川崎市経済局	局長	
6 森田 耕次	千葉大学工学部	名誉教授	
7 宮田 隆司	(社)日本溶接協会	会長	
8 長谷川 博	(社)日本溶接協会	専務理事	
9 櫻本 正敏	(社)軽金属溶接構造協会	専務理事	
10 大森 繁	(社)全国鉄構工業協会	専務理事	
11 平野 正明	(社)日本機械工業連合会	常務理事	
12 松崎 博彦	AWA 認証機構	会長	
13 北田 豊文	JFE スチール株式会社	監査役	
14 石川 忠	新日本製鐵(株) 鐵鋼研究所接合研究センター	センター長	
15 奥田 秀雄	住友金属工業(株)	専務執行役員	
16 馬場 信	産報出版(株)	代表取締役社長	
17 清水 保弘	(株)東芝京浜事業所	所長	
18 計良 光一郎	(社)日本鋼構造協会	常務理事	
19 奥石 房樹	(株)神戸製鋼所 溶接加工作業 技術開発部	部長	
20 護 雅典	(株)竹中工務店 東京本社 建築技術部	課長	
21 津山 巖	(株)日建設計 東京オフィス構造設計室		

【監事】			
氏名	所属	職名	
1 青柳 邦郎	(株)青柳製作所	会長	
2 尾上 久浩	(株)巴技研	顧問	

【顧問】			
氏名	所属	職名	
1 江川 吉光	元(財)日本溶接技術センター	専務理事	
2 松沢 成文	神奈川県	知事	
3 阿部 孝夫	川崎市	市長	
4 中田 宏	横浜市	市長	
5 大嶋 健司	埼玉大学	名誉教授	
6 重見 憲明	川崎商工会議所	副会頭	
7 中村 孝	(株)電元社製作所	顧問	

【参与】			
氏名	所属	職名	
1 伊藤 佛二	元(財)日本溶接技術センター	常務理事	
2 福田 和男	元(財)日本溶接技術センター	理事	
3 山口 太郎	元(財)日本溶接技術センター	理事	
4 徳岡 優和	前(財)日本溶接技術センター	部長	

【評議員】			
氏名	所属	職名	
1 吉道 正夫	(社)日本ボイラ協会	常務理事・技術部長	
2 加藤 寛	(社)日本非破壊検査協会	会長	
3 南部 和男	(社)日本非破壊検査工業会	理事長	
4 吉武 進也	(財)国民工業振興会	専務理事	
5 谷屋 利隆	(社)神奈川県高圧ガス流通保安協会	会長	
6 村上 秀夫	(社)日本溶接協会神奈川支部	支部長	
7 石井 宏治	(株)石井鐵工所	取締役社長	
8 酒井 啓一	(株)アデルコ	技術員	
9 松井 繁朋	元川崎重工業(株)		
10 菅 哲男	神鋼溶接サービス(株)	常務取締役	
11 吉村 秀幸	日陽エンジニアリング(株)	常務取締役	
12 高須賀 洋三	(株)スノウチ	取締役社長	
13 宮脇 伸賢	住友重機械リソニック(株)	取締役専務	
14 平塚 卓	太平電業(株)	取締役社長	
15 山本 英幸	ダイヘン溶接メカトロシステム(株)	取締役社長	
16 平位 健治	千代田化工建設(株)業務統括	副統括	
17 金井 善雄	那須電機鉄工(株)八千代工場	執行役員工場長	
18 福田 隆	(株)日本製鋼所経営企画室	理事	
19 笹山 真一	(株)YAKI N川崎	技術研究所開発室長	
20 長谷川 徹男	(株)タセト	取締役社長	
21 赤原 英雄	(株)赤原鉄工所	取締役社長	
22 猪股 一部	(株)カネショー	専務取締役	
23 泉並 健一	(株)検査研究所	取締役社長	
24 吉野 一	(株)ヤシマ	常務取締役	
25 葛西 陽一	日揮工事(株)	本社工場長	
26 山崎 達彦	日本バルブエンジニアリング(株)	取締役社長	
27 石川 昌巳	J F E 工建(株)	溶接工事部長	
28 石塚 俊男	(株)福崎鉄工所 生産技術部	副部長	
29 井上 裕之	愛知産業(株)	取締役社長	
30 秋山 金吾	(株)秋山商店	代表取締役会長	
31 富田 真己	(財)溶接接合工業振興会	理事	
32 富士 岳	(社)非破壊検査工業会	参与審査部長	
33 中村 稔	(株)タセト	取締役営業本部長	
34 村上 武夫	元(株)竹中工務店		
35 松本 正巳	(株)巴技研	特別顧問	
36 仲田 孝幸	日本溶接構造専門学校同窓会	会長	
37 中西 保正	(株)I H I	技監	
38 谷垣 尚	愛知産業(株)	顧問	
39 夏目 光尋	元横河工事(株)		
40 筒井 政博	(社)チタン協会	専務理事	
41 染矢 茂利	東京足立鉄骨工業会	会長	
42 丸岡 義臣	(有)丸岡義臣技術研究所	所長	
43 針田 幸以千	創研工業(株)	社長	
44 清水 潤一	(株)電元社製作所	社長	
45 白井 越朗	元第三者検査機構		
46 黒田 義信	神奈川県鉄構業協同組合	事務局長	

発行所 財団法人 日本溶接技術センター  
〒210-0001  
川崎市川崎区本町 2-11-19  
Tel 044-222-4102  
Fax 044-233-7976  
URL <http://www.jwsc.or.jp/w.htm>

# 日溶セがいと

本号の主な内容

- 1、復刊にあたって一言
- 2、本年度前半の活動状況報告
- 3、活動トピックス
  - (1) 専門学校の活動状況(4～10月)
  - (2) JICA / IIW-IWIP セミナーの開催(9～10月)
  - (3) オートマーケット国際展示会プレミナ-の開催(10月)
  - (4) METI / イラク産油国研修への協力(10月)
  - (5) 館内職場環境整備活動(4～10月)
- 4、平成 19～20 年度役員名簿



写真 5,6 : METI / イラク産油国研修への協力



## 1. 復刊にあたって一言

日溶セガイドは第9号(平成18年1月15日発行)をもって暫く休刊していましたが、このたび事務運営機能の新体制が整いましたので改めて再開させていただきます。本誌の刊行目的は、当センターの業務活動成果をタイムリにお知らせし、今後の発展を期するため皆様方のご理解とご支援を頂くことにあります。

ご承知のように、当センターの事業活動の根幹は、溶接および検査に関する専門技術の教育事業と試験・研究事業であります。すなわち、財団法人日本溶接技術センターは、(1)社会人を対象とした溶接技術・技能および非破壊検査技術の教育訓練事業、(2)溶接および非破壊検査関連の技術者育成を目的とした専門学校の運営、(3)中小企業支援の一環として公的試験機関の役割を遂行 といった主要業務を展開し溶接・検査技術における**中立的な公益機関**として、その責を果たしたいと考え活動致しています。

活動に当たっては、所轄官庁の**経済産業省産業機械課**を筆頭に、**神奈川県、横浜市、川崎市**の各行政窓口部門、加えて**関連諸団体および賛助会員各企業・団体**からご指導ご支援を頂いており日頃深く感謝しております。今後とも宜しくご協力のほどお願い申し上げます。

## 2. 本年度前半の活動状況報告

本年度もすでに前半が過ぎ去り、そろそろ年の瀬の声が聞こえる時期になりましたが、前半を振り返り当センターの活動状況を報告致します。

本年度の出だし、まずは昨年度比較で AW 検定試験業務の**大幅な削減**に直面したことに引き続き、工事材料試験報告書の瑕疵問題に端を発して**東京都認定試験機関登録の辞退**を招きました。その結果、試験・検査関連事業の年度計画値を大幅に下方修正せざるを得なくなるなど正に逆風が吹き行く手に暗雲が立ちほだかりました。

しかしながら、一般試験・検査に関する依頼案件が**比較的順調に推移**したことに加え、教育・訓練に関する、溶接技術教育、溶接技能教育、安全教育、認証支援、非破壊検査技術教育のいずれの事業も、現在までのところ**年度計画ペースを上回る実績**を得ており、好調とは言えないにしても全体としてまずまずの活動状況でありました。

とは言え、当センターの事業構成から前期に比較し後期の活動が鈍る傾向があることを勘案すると決して安心はできず、年度末に向けて収支均衡を果たすべく**センター所員一同一丸**となって努力する所存であります。



写真1: 課外授業(JAL 整備工場見学)



写真2: 新入生歓迎会・懇親会(ソフトボール大会)

## 3. 活動トピックス

### (1) 専門学校の活動(4~10月)

今年度の専門学校新入生は、**溶接・検査技術科6名、安全・設備技術工学科6名、鉄骨生産工学科6名の計18名**で、2年生18名と併せて**在校生トータルは36名**となりました。年次行事も順調に消化し、例年の如く、各自の進路に沿った勉学に邁進すると共に、**各種の資格取得**に励む日々を送っております。また、来年度から新たに「**企業奨学金制度**」を導入することにしています。この制度は求人ニーズの高い企業から企業奨学金の申し込みを受け付けるもので、奨学金枠の拡大により受験希望者が増え学生数が増加することを期待するものです。なお、来年3月卒業予定者は全員進路(就職先)が内定しており、その内訳は以下の通りです。  
鉄骨ファブ(5) 大手製造業系列(5) 機械・製缶業(7) 家業溶接業(2) 検査会社(1)

課外授業(工場見学: JAL 整備工場)の様子(写真1)

新入生歓迎会・懇親会(ソフトボール大会)の様子(写真2)

### (2) JICA / IIW-IWIP セミナーの開催(9~10月)

昨年度に試行的に実施した本セミナーを今後定着させるべく、本年度も16日間にわたって**計9名の JICA 外国人研修生**に対し実施しました。その結果**6名の研修生が IWIP の取得**を果たすことができました。

### (3) オートアフターマーケット国際展示会プレミナーの開催(10月)(写真3)

一昨年度以来、溶接技術教育を通じて**自動車車体整備業界(オートアフターマーケット)**との結びつきを深めています。本年3月の業界における**国際展示会**において、自動車への軽量化材料(高張力鋼、アルミ材など)の採用増加により生じている溶接課題をテーマに掲げた特別セミナーへの協力・支援を果たしました。来年度の主テーマとして企画されている「**業界におけるコンプライアンス**」についても引き続き協力・支援ということで参画する予定になっております。今回、その事前準備の一環として、「**安全な事業展開と法令違反が及ぼす影響**」と題してプレセミナーを当センターで開催し、**約70名の聴講者**が参加しました。

### (4) METI / イラク産油国研修への協力(10月)(写真4,5,6)

インターテック社が受け入れ実施している**産油国研修コース(経済産業省)**の**イラク人研修生20名**が来訪しました。研修生側の要望に応え溶接・検査技術の教育訓練に関する当センターの役割と事業活動内容を説明した後、全館を案内し具体的に施設や教育訓練状況を見学してもらい国際協力の責を果たすことができました。



写真3: オートアフターマーケット国際展示会プレミナー



写真4: METI / イラク産油国研修